

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

(公財) 東京都環境公社

2 実施日時

令和元年7月18日(木) 14時17分～14時32分

3 出席者

- ・団体側出席者：澤理事長、齊藤常務理事、
若林環境政策担当部長(環境局)
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、
小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

暑さ対策については、ハイテクとローテクを組み合わせていくことが重要である。ハイテクに興味を示す国と、ローテクに興味を示す国は違う。様々な技術や知識を公社に集めていただき、都と連携した発信をしていくことで、ニュービジネスが生まれることを期待している。

○澤理事長

そこは重要だと思っている。

○小池知事

廃プラスチック問題については悩ましい。日本はペット to ペットの技術はあり、ペットボトルの回収率も高いことから、「ペット to ペットは日本の方式だ」くらいの気概で取り組んだ方がいいと思っている。

○澤理事長

高品質のボトルに再生するためには、高品質の状態でもリサイクルに回す必要があるため、環境局と連携し、どう普及啓発をしていくかも重要である。東京2020大会の場で、都がそのモデルを示すことはできると思う。

○小池知事

再生エネルギーは、進めていくうえでの様々な工夫が必要であり、公社が中心になってやってもらいたい。

○澤理事長

今年度、再生エネルギー関係などの新規事業も請け負っているので、業績が上がるように頑張っていく。

○齊藤常務理事

気仙沼と調布の発電所から電気を買入れ、電気事業者としても一部取り組んでいる。

○遠藤総務局長

水素の関係で福島県と協定を締結したところだが、先日浪江町に新しくできた産業センターと話をしたところ、太陽光発電ではCO₂フリー水素が多く発生するものの、まだ使い道が決まっていないとのことである。都にも使い道の相談があったので、ぜひ公社にも考えていただきたい。

○小池知事

水素は運搬コストが課題である。水素は一つの目玉になろうかと思うが、今はコストが見合わない。ただ、最初はやむを得ないと思うが、FCV（燃料電池自動車）も含め、よく研究して行ってほしい。

○武市財務局長

廃プラスチックについてもそうだが、事業を拡大させていくにあたり、コストの問題など様々な課題を乗り越えないといけない。技術開発についても公社で取り組みをしているのか。

○澤理事長

直接、技術開発まで結びつくかは何とも言えないが、環境科学研究所では、数年前から文部科学省や環境省などの外部資金の導入や自主経費で研究に取り組んでいる。その中で他自治体と連携した研究などにも取り組んでいるので、都政に対するフィードバックもできるのではないかと考えている。

○武市財務局長

期待している。